

当院において原発性副甲状腺機能亢進症の治療を受けられた方へ

—「高齢者原発性副甲状腺機能亢進症の臨床的特徴の検討」へご協力をお願い—

研究機関名およびその長の氏名：岡山大学病院 前田 嘉信

研究責任者：岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科 和田 淳

1) 研究の背景および目的

原発性副甲状腺機能亢進症は首にある小さな臓器である副甲状腺から副甲状腺ホルモンというホルモンが増えすぎてしまうという病気です。この病気では血液中のカルシウムの量が増えてしまい、その結果全身に様々な不調が出現したり、骨が折れやすくなる骨粗鬆症になりやすくなったり、腎臓や尿管に石ができやすくなったりします。治療としては、基本的に腫れている副甲状腺を手術で取ることになります。また、症状が軽い人や手術が難しい人などではその他の治療として飲み薬や注射薬で血液中のカルシウムの量を調整したり、骨粗鬆症の薬を一緒に使うことがあります。

この原発性副甲状腺機能亢進症は比較的高齢の方で見つかることも多い病気ではありますが、高齢化が進む日本において、手術やその他の薬といった治療法の選び方やその治療効果が年齢によって違うのかということはまだ十分に分かっていません。

そのため、今回は岡山大学病院で原発性副甲状腺機能亢進症の治療を受けた人を対象に、年齢によって手術やその他の治療法の選び方に違いあるのかと、それらの治療効果の違いについて調べます。

2) 研究対象者

2014 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科/内分泌センターにおいて原発性副甲状腺機能亢進症と診断されて、MIBI シンチグラフィー/SPECT-CT 検査を受けられた 50 歳以上の方、300 名を研究対象とします。

3) 研究期間

研究機関の長の許可日～2027 年 3 月 31 日

情報の利用開始予定日：研究機関の長の許可日から 1 週間後

4) 研究方法

当院において原発性副甲状腺機能亢進症と診断された方について、研究者が診療情報をもとに年齢別に治療法の選択と治療効果の違いについて分析を行います。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

(年齢、性別、診断名、現病歴、既往歴、合併症、血液検査結果、尿検査結果、画像検査結果、処方薬、病理診断結果、入院中に発生した有害事象)

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後 5 年間、岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科 医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究資金と利益相反

この研究は、岡山大学の運営費交付金の資金を用いて実施します。

この研究に関して利害関係が想定される企業等で研究責任者や分担者あるいはその家族が活動して収入を得ているようなことはありません。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方（ご家族の方等も拒否を申し出ることが出来る場合があります。詳細については下記の連絡先にお問い合わせください。）にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。ただし、すでにデータが解析され、個人を特定できない場合は情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

＜問い合わせ・研究への利用を拒否する場合の連絡先＞

岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科

氏名：藤澤 諭

電話：086-235-7234（平日：9 時～17 時）